

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第9回就労支援部会				
(2) 開催日時	平成31年2月18日（月）15：00～17：00				
(3) 開催場所	蒲田地域庁舎5階 小会議室2				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員				<敬称略>
	鶴田 雅英	中野 真弓	高橋 由紀	星野 歩	都丸 利奈子
	加藤 治	山崎 訓子	相澤 あゆみ	谷口 学	宇田尻 浩司
	平井 有希子	小島 誠治	富田 文子		
	区職員：富永 眞也				
	事務局：小林 善紀、森崎 恵理、滝本 裕弥、西澤 佳佑				
欠席者：根本 真理子、酒井 弘美、佐藤 正浩、関 香穂利					
(5) 内容・要旨	<p>1 各委員・各ネットワークからの情報提供</p> <p>(1) おおたTSネットより 1月31日に弁護士の方をお呼びし、「弁護士の立場として地域でできること」というテーマでご講演いただいた。</p> <p>(2) 生産活動支援施設連絡会より 2月14日にバレンタインイベントが実施された。次回は、3月24日の障がい者総合サポートセンター二期工事のグランドオープンイベントにて販売を行う予定。</p> <p>(3) 精神障害者就労定着支援連絡会より 2月19日に連絡会が開催される。今回は、障害者職業センターの方をお招きし、就労定着支援における新たなツールについて、解説等していただく予定。</p> <p>(4) 職場体験実習実行委員会より 3月2日にサポートセンターにて、サロン・ド・ワークを開催する。職場体験実習参加者や今後実習を希望する人と企業就労者との懇談会を行う。グループに別れて就労についての意見交換も行う予定。</p> <p>(5) ひきこもり・生きづらさ茶話処について 今年度から取り組み始め、全4回実施した。毎回、当事者の方や保護者の方が多数参加されていた。次年度についても実施を予定している。また、2月5日には支援者向けの学習会を行った。民生委員の方の参加が多かった。</p> <p>(6) Dore みつけ事業案内 自立を目指す25歳までの若者を支援するプロジェクト。障がいの有無に関わらず若者を支援し、自分のキャリア形成に役立ててもらうことが目的。一部のサービスは有料。</p>				

## 2 事務局からの情報提供・確認事項

### (1) 就労促進担当者会議の報告

2月は企業が二社参加し、雇用情報の提供があった。支援者向けの就労担当者セミナー、当事者向けの就活講座の報告もあった。また学習会では、「生活を支える」をテーマに、グループホームでの暮らしや支援について、幸陽会生活ホームに講師を依頼し実施した。3月には、ANAスカイビルサービスを講師として呼び出し、清掃講座を実施する予定。

### (2) 公開セミナーの振り返り

会場のキャパシティから考えると、もう少し参加者が増えるといいのではないか。開催時間を少し遅めに設定できれば、業務終了後に参加できる人も増えるのでは。今回、障がい者支援関係以外の分野の方々にも声をかけた。当日は、区内の商業団体からも参加があった。障がいがあっても働いて稼ぐことができることと、地域の活性化をマッチさせるという視点でのニーズがあったと考えられる。

障がい者の工賃をどのように上げていくか、そのためにどのように地域と連携していくか等、実際の取り組みに基づいて話してもらい、希望を与えてもらったように感じたとの意見もアンケートから見られた。今回の講演をふまえて、大田区で実現していくためには、どのように行動していくかを具体的に検討していく必要がある。

### (3) 第8回就労支援部会 ゲストスピーカー「大田シュール」の振り返り

登校拒否と呼ばれていた時代から支援を展開している。義務教育に限らず、ホームスクール等いろいろなタイプが選べるようになるとうい。不登校の小学生が、利用できる居場所が少ない現状が課題としてある。そういった児童が頼れたり選択できたりする社会資源を増やしていくことが必要。不登校になってしまった人たちは、自己肯定感が極端に低い。プログラムや活動を通して自己肯定感を高めることができれば、学校に戻っていきやすいのではないか。

就労継続支援B型にも、精神疾患を若年層で発症し、学生時代に学校に通えなかった利用者がある。不登校になると、同年代の対人関係を築く機会がとて少なくなってしまうため、フリースクールが担っている役割は大きい。そのような人たちへのサポートとして、障がい福祉サービス以外の社会資源を知ることができたのは支援者として収穫であった。

若者支援は大田区の課題でもあるので、障がい福祉分野に限らず様々な分野の人とつながっていく必要がある。今回、障がい福祉分野以外の人と関係が作れたことは有意義であった。グレーゾーンの人たちとのつながりの第一歩となったので、今後も継続していきたい。

### 3 第三回本会での報告に向けて

報告書の内容確認および報告用スライド資料の確認として、各委員が作成した資料を基に、本会報告に向けた意見交換を行った。挙げた意見を参考に、資料を修正する。

次年度に向けて、委員より以下のような意見があった。

検討課題について、現在の課題に目が向きがちだが、時間軸も含めて考え、10年・20年先のことにも目を向けた課題検討も必要ではないか。

今年度は、ゲストスピーカーや講師の方からの話を聞くことができた。当事者からも話を聞くなどリサーチを重点的に行き、当事者が何を望んでいるのかということの確認も必要。

### 4 来年度の自立支援協議会について

#### (1) 前回部会での検討事項の整理・確認

次年度体制は、3月15日の協議会本会にて決定予定だが、具体的な体制が決まっていない中で、体制変更の結論を出すことはできない。来年度の途中で部会体制の変更があるかもしれない、各部会から次年度に向けての課題も出ている中で、検討課題について、どのように精査するのか疑問が残る。機能的に三部会になるのであれば、説明をしてほしい。就労支援部会としての形はなくなる可能性があるが、各部会から出た課題について、精査していくのは本会や本会委員になると考えられる。本会は意思決定機関であり、議論できる場であっていいのではないか。ただ、本会では、専門部会委員の意見を反映しづらいという不安がある。委員定数は目安でもいいので示されると良い。ネットワークをつぶさないようにしてほしい。

#### (2) 就労支援部部会としての意見の確認

就労支援部会で出た意見を、本会資料に別紙として添付してほしい。

来年度の自立支援協議会について、その他に意見がある委員は、本会までに部会長と事務局に意見を伝えてもらう。